

# 花ちゃん・オー君・モリ先生・フツ先生のかくかくドット探検てくてく

国立市立国立第七小学校

平成30年3月8日 NO.99 (499)



しもやほこふん ごうふん  
下谷保古墳 (1号墳)

- オー君 「あれあれ？へんな山<sup>やま</sup>みたいなものがあるよ。」
- 花ちゃん 「なんだろうね。あれあれ？山<sup>やま</sup>の上<sup>うへ</sup>に白<sup>しろ</sup>い看板<sup>かんばん</sup>のようなものがあるわ。」
- オー君 「読<sup>よ</sup>んでみよう！むずかしい漢字<sup>かんじ</sup>がいっぱいだよ。『古墳<sup>こふん</sup>』って書<sup>か</sup>いてあるよ。」
- 花ちゃん 「古墳<sup>こふん</sup>って何<sup>なん</sup>だろう。歴史<sup>れきし</sup>に関係<sup>かんけい</sup>あるかもね。」
- オー君 「そうだ。歴史<sup>れきし</sup>をお勉強<sup>へんきょう</sup>している6年生<sup>ねんせい</sup>に聞<sup>き</sup>いてみよう。6年生<sup>ねんせい</sup>！教<sup>おし</sup>えて！」
- 6年生 「よしよし！教<sup>おし</sup>えてよろう。古墳<sup>こふん</sup>というのはだね、お墓<sup>はか</sup>のことなんだよ。」
- 6年生 「そうよ。3世紀<sup>せいき</sup>から7世紀<sup>せいき</sup>にかけてつくられたお墓<sup>はか</sup>なんだよ。」
- 6年生 「今<sup>いま</sup>から1800年から1400年くらい前<sup>まえ</sup>のお話<sup>わたりごと</sup>だね。」
- 花ちゃん 「ずいぶん<sup>おお</sup>と大<sup>おほ</sup>むかしのお話<sup>はなし</sup>なんですね。」
- オー君 「ずいぶん<sup>おお</sup>と大<sup>おほ</sup>きなお墓<sup>はか</sup>ですね。」
- 6年生 「下谷保古墳<sup>しもやほこふん</sup>はまだ小<sup>ちい</sup>さいほうだよ。日本<sup>にほん</sup>で一番<sup>ばん</sup>大<sup>おお</sup>きな古墳<sup>こふん</sup>は、大<sup>だい</sup>山<sup>せん</sup>古墳<sup>こふん</sup> (仁徳天皇陵<sup>にんとくてんのうりょう</sup>) といっ<sup>い</sup>て、大<sup>おお</sup>阪<sup>さか</sup>にあるけど、大<sup>おお</sup>きさが500mもあるんだ。」
- 花ちゃん 「そんな<sup>おお</sup>に大<sup>おほ</sup>きなお墓<sup>はか</sup>があるんですか。おどろきですね。」
- オー君 「でも、どうしてそんな<sup>おお</sup>に大<sup>おほ</sup>きなお墓<sup>はか</sup>をつ<sup>つく</sup>ったのですか。」
- 6年生 「いい質問<sup>しつもん</sup>だね。むかしむかし、大<sup>おお</sup>王<sup>おう</sup> (後の天皇<sup>のちのてんのう</sup>) や豪族<sup>ごうぞく</sup>は、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の力<sup>ちから</sup>を示<sup>しめ</sup>すた

めに、長い年月と多くの人手を使って、ものすごく大きなお墓を作ったんだ。」

花ちゃん「ということは、この下谷保にも大きな力をもった人がいたということですか。」

6年生 「そうだね。多くの人が住んでいろいろな生活をして地域社会をつくり、そして、きっと壮大な文化があり、歴史があったということだよ。」

オー君 「へえー。それはすごいことですね。ところで、古墳はどこにもでもあったの。」

6年生 「国立市にもいくつかはあるけど、これだけまとまってあるのはそうないよ。」

それだけこの下谷保は、昔から住みよいい場所だったということなんだ。」

花ちゃん「私たちの住んでいるこの地域は、とてもすばらしいということですね。」

6年生 「もちろんだよ。モンタ博士も言っているけど、河岸段丘とよばれる『ハケ』には豊かな自然がいっぱいだし、谷保天神や古墳など、人々が生活してきたことがよくわかるものすごい歴史もあるということさ。」

モンタ博士「今回は、花ちゃんやオー君、国立第七小学校のみんなが住んでいるこの地域について、6年生にいろいろと教えてもらってよかったね。これからも、自分であれこれと興味や関心をもってたくさん本を読んだり、自分で調べてみてみよう。きっと楽しいよ。」

やあ！みなさん。こんにちは！私はモンタ博士のご先祖様の『縄文モンタ』といます。下谷保古墳は近くだからぜひ一度行ってごらん。地図もかいたよ。看板の文字も参考のために書いてきたよ。おうちに人に読んでもらおうといいね。



この古墳は立川段丘上に位置し、ここから南東四十メートルに現存する一冢墳などと共に古墳群を形成していたと考えられます。  
昭和六十年秋、測量と発掘調査を行い、その結果周溝が確認され、周溝縁からの東西軸長二二メートル、高さ二メートルの円墳であることがわかりました。また主体部の埋葬施設は河原石乱石包積みによる横穴式石室で、長さ四メートル五十五センチ、幅一メートル八十センチ、高さ一メートル六十センチでした。  
石室は土の圧力により、右側壁と天井が崩落していましたが、奥壁と左側壁はほぼ完全に残っていました。  
遺物は、直刀と鉄製の矢しり教本などが出土しております。  
以上のことから、この古墳は、古墳時代後期六世紀末～七世紀初頭の築造と推定されます。

平成二十年三月

国立市教育委員会

下谷保古墳（二号墳）

